

「復興支援道路」一般国道340号立丸峠工区

事業化約1年で（仮称）小峠トンネル築造工事を発注！

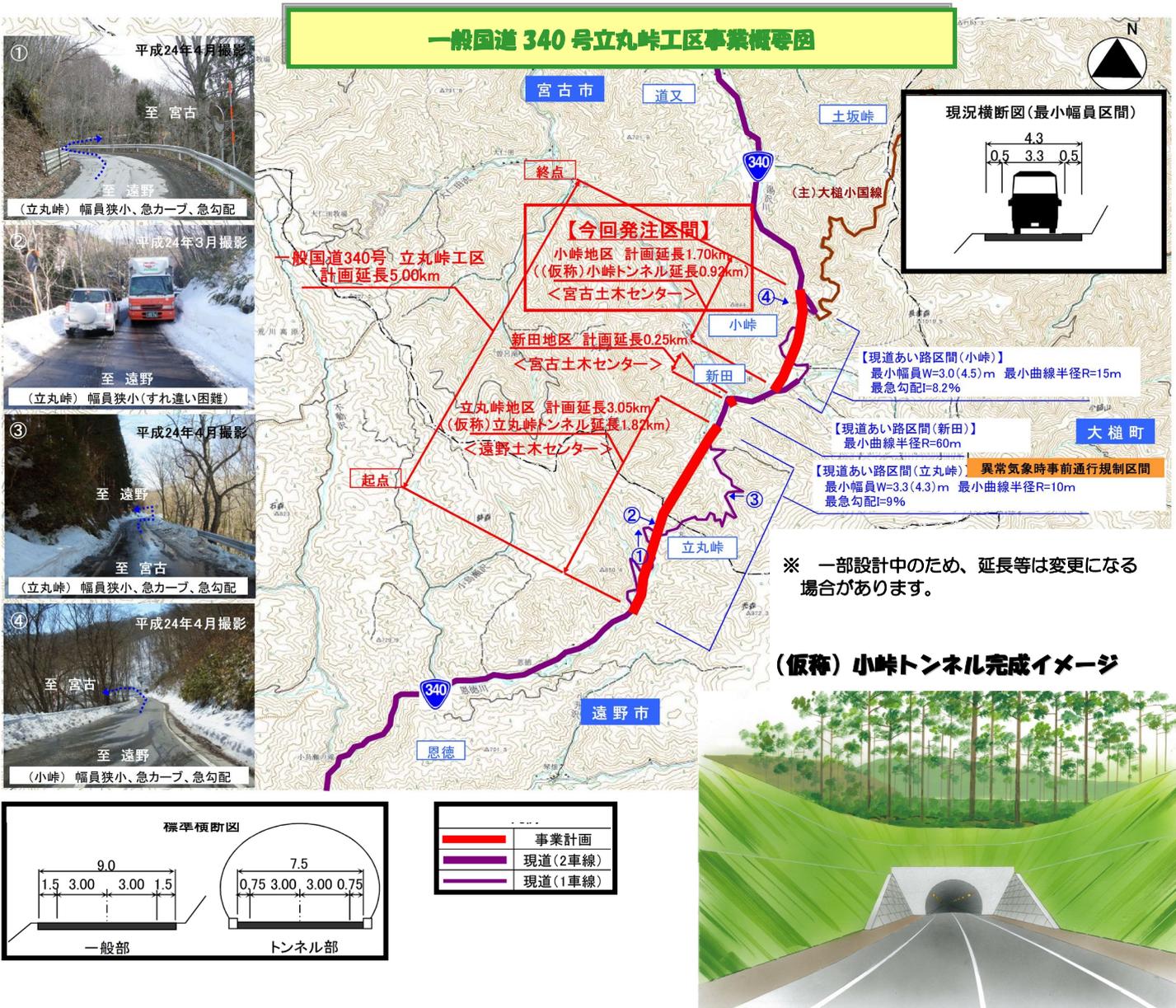
～ 復興の加速化に向けて ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県では、一般国道340号を東日本大震災津波からの「復興支援道路」として位置付け、重点的に整備を進めています。

このうち、遠野市～宮古市間で事業を進めている一般国道340号立丸峠（たつまるとうげ）工区については、復興を加速化させるため、平成24年10月に新規事業化して以来、設計、関係機関協議、用地交渉等を鋭意進めてきました。その結果、通常は新規事業化から工事発注まで2～3年の年月を要するところ、地権者をはじめとした皆様の御協力もあり、宮古土木センターが施行する「小峠（ことうげ）地区」については、新規事業化から約1年で工事発注を行うことができました。

今後は、残る「立丸峠（たつまるとうげ）地区」、「新田（しんでん）地区」の工事発注に向けた準備を進めるとともに、一日も早い完成を目指して事業を推進していきます。



【一般国道340号立丸峠工区の事業概要】

一般国道340号は、陸前高田市を起点とし、遠野市や宮古市を經由して青森県八戸市に至る北上高地を縦断する唯一の幹線道路です。

東日本大震災津波の際は、沿岸部の一般国道45号等が通行止めとなる中、後方支援拠点として機能した遠野市から大槌町や山田町を結ぶ道路として、自衛隊や消防、物資輸送等の緊急輸送道路として大きな役割を果たしました。

また、「岩手県東日本大震災津波復興計画 復興実施計画」における「三陸復興道路整備事業」では、三陸沿岸道路等の「復興道路」を補完する「復興支援道路」に位置づけられています。

しかし、遠野市恩徳から宮古市小国にまたがる立丸峠は、遠野市から宮古市川井唯一の未改良区間で、道路の幅が狭く、急カーブ、急勾配が連続する交通の難所となっており、冬期には風雪や倒木等により全面通行止めが発生するなど、安全で円滑な通行の支障となっていました。

このため、県では、2本のトンネルを含む延長約5.0kmの立丸峠地区の道路整備に平成24年度から着手し、平成30年度完成を目指して事業を進めています。「立丸峠地区」は遠野土木センター、「新田地区」、「小峠地区」は宮古土木センターが事業を担当します。

位置図



一般国道340号が東日本大震災津波時に果たした役割

津波により寸断された国道45号の代替路
 ★自衛隊や消防、物資輸送等の車両が通行
 ★緊急輸送道路としての機能を発揮
 大槌町や山田町の孤立を回避 <命の道>



<計画概要>

- 計画延長：5.0km
 (立丸峠地区：3.05km、新田地区：0.25km、小峠地区：1.70km)
- 計画幅員：6.0(9.0)m
 (トンネル部：6.0(7.5)m)
- 事業期間：H24～H30
- 総事業費：約85億円
- 主要構造物：
 (仮称)立丸峠トンネル：1.82km
 (仮称)小峠トンネル：0.92km

<期待される整備効果>

- ① 時間短縮
 - ・距離が約4km短縮、走行速度が大幅に向上
- ② 安全で円滑な交通の確保
 - ・幅員狭小、急カーブ、急勾配区間の解消
- ③ 通行危険箇所の解消
 - ・異常気象時における落石、倒木等の通行危険箇所を回避
 - ・トンネル整備により冬期間の通行環境が大幅に改善

緊急救命救助隊大阪隊 (遠野市運動公園)

初動時に集結した各種組織の人数 3,500人 (H23.3.11~20)

地震発生後間もなく集結した自衛隊 (遠野市運動公園)

山田町中央町地区 (国道45号)

釜石市西石地区 (国道45号)

× 東日本大震災津波発生時における国道45号の主な寸断箇所